
レアリア学習からみた外国語学習語彙の研究

堤 正典

これまで、外国語使用における現実知識であるレアリアの教育そのものについて研究を行ってきた。その成果のひとつとして、学習語彙のリストを見直すことが新たな課題となることがわかった。

ロシア語の場合、学習に必要な語彙とされるものにレアリアから見ると必要な語彙が含まれていないことがある。ロシア連邦教育科学省認定のロシア語検定試験ТРКИはそれぞれのレベルに必要な学習語彙が挙げられていて、日本人へのロシア語教育においても大いに参考になる。しかし、それは留学生向けのものであり、そのロシア語は、ロシアで生活し、ロシアの大学で勉強することを前提としており、学習語彙もそのようなものとなっている。日本人学習者がロシア語を使用する場面はそればかりではない。留学という場面とともに、ビジネスや観光もあるし、それに並んで日本を訪れたロシア人への対応もある。

このような種々の場面で用いられるロシア語を洗い出し、そこでの語彙で従来の学習語彙にない

ものを学習内容に盛り込むかどうか検討を行う必要がある。この観点から現在検討を続けている。

また、検討の過程で、以下のようなこともわかってきた。日本語では区別がないが、ロシア語のТРКИの学習語彙（第1レベル）では異なる語を用いるような場合、日本人ロシア語学習者には使い分けが困難である。そのような場合には使い分けをしないで用いることができる語を学習語彙に追加するとよい。例えば、ロシア語では「行く」について「歩いて行く」と「乗り物で行く」を区別しなければならず、道を尋ねる際にも（「～へはどう行けばよいですか」）その使い分けが必要である。しかし、道を尋ねる場合は徒歩と乗り物の区別をしなくてよい語を使うことができるが、その語は第1レベルのТРКИ学習語彙に含まれず、その他の基礎的学習書でもその語が導入されることはほとんどない。このような語は日本人向け学習語彙に取り込むべきである。

新たな観点も含め、検討を続けていく。

